

平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	小中一貫によるインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進
事業実施代表者名	附属札幌小 副校長 紺野 高裕
実施附属学校名	附属札幌小・中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本事業は、中教審報告で示された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」に向けた取組である。そして、札幌地区の特色として掲げている、グローバルマインドの育成とインクルーシブ教育の推進の一環としても位置づいている。多くの小中学校において、広汎性発達障害をはじめ高機能自閉症、ADHD症候群、アスペルガー症候群等の発達障害のある児童生徒が増えてきており、その指導の在り方や様々な対応に苦慮している学校が年々増加している。コミュニケーションが苦手なことや他者の心情を察することが十分にできないことに起因し、良好な人間関係を築くことができず、いじめやトラブルに発展する例も多くなっている。</p> <p>そこで、当該児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や教育相談の在り方、通常学級と特別支援学級の交流教育の在り方について小中一貫モデルプランを作成するため、本事業を実施することにした。</p> <p>今年度は取り組んだ内容は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通常学級在籍の教育的ニーズのある児童生徒の実態把握。 担任への聞き取り及びアンケート調査、授業参観を実施し、当該児童の状況を調査しコーディネーターが窓口となり実態把握する。 ② 個別指導及び少人数指導、教育相談体制の整備。 今年度は特に集団生活や他社とのコミュニケーションが苦手な児童へ入ることのできない児童への支援を重点とする。 ③ 通常学級と特別支援学級の交流教育実施計画の立案と実施。 年度始めと学期毎に通常学級と特学担任が打合せし、交流計画及び共同学習の実施計画を立案する。 ④ 小学校の教科学習、中学校の学校行事における交流教育の実施と検証。 小中それぞれに通常・特学担任が連携して実践・検証を進める。 ④ 実施後の評価と改善案の検討。 ⑤ 先進的な取組についての調査研究の実施。 小・中・ふじのめ学級の代表がユニバーサルデザイン研究会)を視察しインクルーシブ教育実践の参考とする。
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<ol style="list-style-type: none"> ① 通常学級在籍の教育的ニーズのある児童生徒の実態把握。 1学期に子ども交流会を設定し困り感を抱える子どもの状況について教職員が共通理解し支援の在り方を検討することができた。 ② 個別指導及び少人数指導、教育相談体制及び施設の整備。 →TA及び担任外教員と担任との連携による個別指導・TTを実施、きめ細やかに個別指導及び支援をすることができた。 また、悩みを抱えている児童や保護者には、スクールカウンセラーや大学教員への相談を働きかけ相談できた。

	<p>③ 通常学級と特別支援学級の交流教育実施計画の策定と実施。 →小中共に具体的な実践を内容、時間共に昨年以上に充実させ円滑に進めることができた。</p> <p>④ 小中学校での教科学習及び学校行事における交流教育の実施と検証。 →小学校では昨年の実践に改善を加えて生活・体育・図工・英語で実践でき、中学校では宿泊行事、藤華際、合唱祭などの行事の他、理科の野外巡検や動物園での学習の他、宿泊行事、藤華際を共に実践できた。</p> <p>⑤ 実施後の評価と改善策の検討。 →小中それぞれに学校評価の中で協議し、新年度計画に改善策を盛り込み、通常学級と特別支援学級相互の立場から、児童生徒にとってよりよい学びにつなげる交流の在り方について共通理解した。</p> <p>⑥ 先進的な取組についての調査研究の実施。 →また、小中学校(通常)の教員が特別支援学級に出向いて授業(小学音楽、中学体育・社会・国語等)するなど、新たな実践に取り組むことができた。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌にインクルーシブ教育の担当部署を置き通常学級と特別支援学級の交流・連携を推進していくようにしているが、その業務を一層充実させ、教務部内でも検討を進めていく。その中で新たに共同学習が可能な活動を探り、各学年で検討し実践化していく。 ・専門家、特に大学教員やスクールカウンセラーとの連携を一層強化し、教育相談の充実と各自のニーズに合う相談活動を推進する。 ・研究大会等で広く発信すると共に大学教員との連携、共同研究を進め、それを参考にして改善へとつなげていく。 <p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任(体育・音楽等)が特別支援学級に出向いて授業する教科数及びその機会をさらに拡大させていく。 ・宿泊学習や学校祭などの行事、理科の野外巡検以外の共同学習の可能性を見出し実践の進化を図る。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も小中ふじのめの合同研修会の場をとり、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインの授業について各教員の共通理解を図ると共にこれまでの実践をふり振り返り、一層の改善を図っていく。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>小学校、中学校、ふじのめ学級それぞれの研究大会において発表。 小学校研究紀要に掲載(ユニバーサルデザイン)。 附属札幌小・中学校のHP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/23 中休みの交流 ・ 5/20 クラブ活動の交流 ・ 5/25 共同学習(命と安全を守る授業) ・ 6/13 リバーサイドウォーク ・ 12/22 クリスマス会

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。